

私を貫くもの

2023 年、地球社会は分断の歴史を繰り返しています。国家という境界線も曖昧な時代。文化、宗教、人種、政治信条、イデオロギーなど、人間社会を分断する要素はいくつでも存在しています。しかし、それを乗り越え、融合を目指すのも人間社会ではないのか、と思いは逡巡します。自分自身が人生の先を見失わず、混沌とした時代を生きていく為には、自分を「貫くもの」が必要であると感じます。今年度は「私を貫くもの」をテーマに、皆様とご一緒に考えて参りたいと願っております。(仲野好重)

第 1 回

6/9 金 魂と言葉をつなぐ

没後 23 年が経った今も、多くの読者から愛される須賀敦子。初めて触れた彼女の著書は、言葉の魔術師を連想させた。たっぷりと充実した言葉の数々に、著者の凛然とした生き方が見えてくる。須賀敦子の言葉は何に貫かれていたのか。

第 2 回

7/7 金 1984 年が語るもの

マルクス主義者から民主社会主義者へ変貌したジョージ・オーウェル。彼が 1949 年に著した傑作「1984 年」は、21 世紀の全体主義世界を予言した内容である。AI の管理社会が現実味を帯びる中で、彼の発想を貫いていたものを発見したい。

第 3 回

9/8 金 死の「宣告」から読み解く

精神科医、犯罪心理学者、そして作家の顔を持つ加賀乙彦。彼の大作「宣告」から、人間の生と死の極限で揺れ動く精神の実態を考える。加賀の創作は何に貫かれていたのか。

第 4 回

10/6 金 静寂・勇気・叡智を生きる

アメリカ合衆国の自由主義神学者であり、有名な「祈り」を書いたとされるラインホルド・ニーバー。キング牧師、カーター、オルブライト、クリントン、マケイン、オバマなどに多大な影響を与えた現実主義に基づく思想は何に貫かれていたのか。

第 5 回

11/17 金 異なるを歎く

「善人なをもて往生をとぐ。いはんや悪人をや」を信条とした親鸞。まれに見る秀才との評判をほしいままにした青年時代、そしてその後の波乱万丈な人生が、名著「歎異抄」の土台となったのか。親鸞の「信」は何に貫かれていたのか。



イラスト：遊馬大空 (人間塾第 10 期生) デザイン：猿渡啓太 (人間塾第 9 期生)

会場 都ホテル尼崎 すいせん

定員 70 名 受講料 会員 15,000 円 (全 5 回)

時間 18:15~20:00 非会員 5,000 円 (1 回)

講師 一般財団法人 人間塾 代表理事 仲野 好重

● アクセス

- ・阪神 尼崎駅 徒歩 6 分
- ・JR 尼崎駅から市バス「尼崎文化センター」下車
- ・阪急塚口駅から阪急バス「尼崎総合文化センター」下車

住所 兵庫県尼崎市
昭和通 2-7-1



MAP ▼



お問合せ・お申し込みは下記のいずれかをお願いします。

TEL 03-6272-6147

E-mail office@ningenjuku.or.jp

FAX 03-6272-6148

E-mail でお申し込みの方は、お名前、ご住所、お電話番号、会員・非会員、をご記入の上、お送り下さい。
FAX でお申し込みされる場合は、下記のフォームにご記入の上切り取らずにそのまま送信して下さい。

フリガナ

名前

携帯番号